

大震災と家計の地震保険加入行動－地震保険統計を用いた実証分析－

慶應義塾大学

柳瀬 典由

1. はじめに

地震や風水害をはじめとして、大災害による人的・経済的損失は世界的に拡大しており、その傾向は 1990 年代以降において顕著である。米国ではハリケーン・カトリーナ（2005 年）等、大規模な洪水リスクへの対策が課題となっている。とりわけ、洪水による経済的損害額に対して、全米洪水保険制度（NFIP）による補償割合はせいぜい 2 割程度であり、補償ギャップの問題が強く残存する。これは、政府による数々の努力にもかかわらず低い保険加入率にとどまることに起因している。

世界有数の地震大国であるわが国も例外ではない。地震保険制度は世界に冠たる災害リスクファイナンスの仕組みであるが、それでも、全国平均 33.1%の世帯加入率にとどまり（2019 年度末）、都道府県間でのばらつきも大きい。加入率を高め補償ギャップを低下させるためにはどのような政策が必要なのだろうか。この点は多くの研究者が関心を持ち続けているテーマであるが、そのためには、大災害をめぐる保険加入行動の理解が重要となる。

この点を理解するために有用な観察事実として研究者が注目してきたのは、大災害前後の非対称な保険加入行動、すなわち、大災害前には人々の保険加入率が低い一方で、災害後には加入率が急増するという現象である。最近ではこのような非対称需要の存在について、ヒューリスティック下での意思決定として説明を試みる研究が多い（e.g., Volkman-Wise, 2015）。

2. 考察方法

本報告では、報告者が取り組んでいる 2 つの共同研究 — Kamiya and Yanase (2019) ならびに Kakamu et.al (2021) — の概略の紹介を通じて、わが国の地震保険制度を対象に大災害前後の家計の保険加入行動について考察する。なお、前者は既に刊行済みであるが、後者は現時点でワーキングペーパーであり、引き続き論文内容の改善を進めているところである。

わが国は、関東大震災（1923年）以来、阪神淡路大震災（1995年）まで極端な大震災を経験してこなかった。ところが、2011年、大震災の記憶が人々の記憶に残存しているなかで、再び東日本大震災を経験することになる。これほどまでの大災害を、さほど長くない期間内に複数回経験するという事は世界的にも稀である。こうしたわが国の経験をもとに、上述の2つの研究は、極端な大災害による人々の直接的・間接的な被災経験が、大災害に直面した際の人々の災害保険加入行動にどのような影響を与えるのかという問題を考察している。

Kamiya/Yanase (2019)は、大災害後の保険加入者行動に関して、直接的な被災経験のみならず、個人に内在化された情報が共有されることで間接的な被災経験による効果も強く持続することを明らかにした。また、過去の大震災の直接的な被災経験が、その後の別の大地震後の保険加入者行動に与える影響を分析したところ、人々の非合理的要因（利用可能性バイアス等）が過去の被災経験の効果を説明するのに役立つことも分かった。他方、Kakamu et al (2021)は、阪神淡路大震災後に人々の地震保険加入行動の攪乱状態に着目し、人々の保険加入行動における非合理的要因が「都市」という文脈と関連を持ちうるのかどうかという点をベイズ推計の手法を用いることで分析を試みている。

3. 今後の課題

いずれの研究もわが国の地震保険統計（都道府県単位）を基に分析しているが、より頑強な分析のためには、市町村単位のデータを過去に遡及して入手する必要がある。産官学で連携することで、国際的にも貴重な統計である地震保険統計のさらなる活用が期待される。

参考文献

1. Kamiya S., and N. Yanase (2019), "Learning from Extreme Catastrophes", *Journal of Risk and Uncertainty*, Vol. 59 (1), 85-124.
2. Kakamu K., S. Kamiya, P. Stauffer-Steinnocher, N. Yanase and T. Yamasaki (2021), "The Effects of Catastrophic Events on the Purchasing Behavior for Earthquake Insurance in Japan: A Bayesian Approach.", *Discussion Paper Series*, 2021-21 (Kobe University).
3. Volkman-Wise, J. (2015), "Representativeness and Managing Catastrophe Risk," *Journal of Risk and Uncertainty*, Vol. 51(3), 267-290.